

ネギ 生産と消費の課題探る

卸は「葉3枚」の確保要望も

青果育種研

青果卸会社と種苗会社で組織する青果育種研究会(会長＝宮本修・東京青果専務)は、2日間 にわたり埼玉県と茨城県のネギ園場および全農 県本部の集出荷施設を視察した。また、生産 者、種苗会社、市場関係者などが揃ったシン ポジウムを開催し、ネギの生産・流通・消費に関 する課題などについて意見交換。とくに近年の 寒さで、出荷の際に「3枚の葉の確保が困難」で あることなどが課題としてあがった。

増加していることから 作付面積は増加傾向にあ る。深谷市内にあるJA 全農さいたまの青果ステ ーションでは、こうした 生産者らに対し、「低コ スト化、省力化」の取組 みを実施している。 周辺JAからコンテナ で出荷されたバナネギ (むぎネギ)の結束・箱 詰め、泥ネギの皮むき、 選果選別、結束作業を行 い、市場を中心に販売。 2012年はむぎネギで 1031ト、泥ネギ81 トを出荷した。バラ出 荷は箱詰めでの出荷に比 べ3分の1程度の努力で 済む。また、泥ネギは14

人生産者が出荷してい る。これにより、「作付 面積の拡大や自由時間の 創出などの効果がある」 (JA全農さいたま)と いう。 一方、JA全農いばら きのVFステーションは 県内4か所あり、ネギの 取扱いは東西(八千代町) が中心。VF合計でのネ ギ取扱いは約7億円。周 辺JAから買い取ったネ ギを結束して出荷すると ともに、泥ネギの皮むき 作業も委託している。 若手生産者が皮むき作 業を委託しており、これ により作付面積の拡大を 実現。JA全農いばらき

「1ト種子ではなく生種を 使用、密植して自身部分 を短く栽培しては」など と話した。 栽培のしやすさや規格 への適合などが求められ る反面、鍋用や食味にこ だわったネギなども登 場。「今後の消費拡大の ためにもおいしいネギ を」と要望する卸も。種 苗会社関係者も「おしし さと安心して栽培できる ことの両立が使命」と述べ た。こうした声を受け、 「さまざまな品種がある が、まだアプローチが十 分ではない(卸関係者) と、品種を打ち出した販 売の可能性が示された。 メニューの主役になり にくいネギだが、コンビ ニ二級菜などの原料調達や 製造を行う虎昭産業の橋 本幹雄開発本部長は、千 葉産の「九十九里海子 ねぎ」を使用した「辛味 噌やきとり(九十九里海

出した売り場づくりが消 費を拡大させる上で重 要」との意見も複数出た。 29日は茨城県八千代町 の高崎一男さん(69)の ネギ園場(ほじょう)を 見学。28日に埼玉県深谷 市で開いた意見交換で は、JA全農いばらきが 「耐寒性がある葉枯れ が出ない品種を開発して ほしい」との要望が出た。 センソーレフンの各 店舗で使うネギの調達を 担当する虎昭産業購買ク ループの橋本幹雄専任部 長は、千葉県JA山武郡 市のブランドネギ「九十九 里海子ねぎ」を原料 に使った焼き鳥商品につ いて「他の総菜の3倍の 注文が来ている」と説 明。ネギの可能性につい て「まだまだネギ自体が 主役になりきれしていな い。もっと食べ方や機能 性をアピールしていくべ きだ」と話した。



深谷市内の園場を視察(上)JA全農いばらきの県西VFステーションでは、皮むき作業を受託。1日200～250㌦を処理

では「こう した生産者 支援が県の 作付面積拡 大につながる

消費拡大策では 品種のPR必要に ついては、意見交換で市場関係者 からの要望が多かったの が、「厳冬の出荷分につ いて、葉を3枚確保」 すること。この時期は寒 さで葉が枯れてしまい、 出荷規格である、青い葉 の部分を3枚残すことが 難しい場合がある。卸か らは、「一番の問題は葉 の黄変や枯れ(厳冬期に 3枚の葉が確保できない のなら、(温暖な)千葉産 に変えることも考えざる を得ない」との意見も。 また、全農からも「最近 の品種はオールシーズン 型。12月～3月に出荷で きる、耐寒性があり生育 の良い品種を育成してほ しい」との声があがった。 一方、栽培にあたって は、経費や労働費などを 合わせ、「1㌦平均単価 が1000円以上でない」と 採算が合わない(全 農)と要望。それに対し 知も「最低ライン1000 0円をめざしている。そ うでないとは後継者問題が 解決しないと理解を示 した。また、「B級品や 曲がりなどは業務筋から 引き合いがある。下位等 級品の単価アップ」との 意見もあがった。

さらに、産地業者は業 務・加工用に向けた「コ ストダウン策として、「コ

「子ねぎ使用」セブン- イレフンで地域限定販 売が、「通常の総菜の3 倍多い注文があった」と

報告。「コンビニも上半 年に使えばPRの媒体にな る」と話した。

ネギ育種で 意見を交換

卸、種苗会社、産地が研究会

青果卸や種苗会社、産地などで構成する「青果育種研究会」は28、29の両日、埼玉、茨城県内でネギをテーマにした研究会を開いた。流通業者ら約50人が参加。意見交換では産地や卸から品種育成についての要望があつた他、「品種特性を前面に

農経新聞

2014(H26)年2月10日付

日本農業新聞

2014(H26)年1月30日付